

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270300191
法人名	有限会社 ハートキュアエム
事業所名	ハートキュアひらた
所在地 (電話番号)	島根県出雲市国富町832-2 (電話)0853-62-5166
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111号
訪問調査日	平成21年6月9日

【情報提供票より】(21年6月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年6月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	RC 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	90,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	270 円
	または1日当たり 1170 円			

(4)利用者の概要(5月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83.6 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター、太田病院、島田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の中にあるGHで“ゆっくり、たのしく、いっしょに、穏やかに”という基本理念のもと、そのとおりのケアがされている。利用者の方たちは、自分の生活スタイルを大切にされており、ゆったりと暮らしておられる。職員の配置も、日中では利用者に対し3~4:1の割合となっている。職員研修や資格取得に関しても配慮がなされ、特に昨年は職員のスキルアップに取り組み、介護福祉士試験に5名が合格するという成果をあげている。また、ターミナルケアについての文書化も整備されており、十分な話し合いや研修もなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題項目は4項目あったが、運営推進会議に報告し職員会議などで検討しいずれも改善に向けて努力されていた。今回は「同業者との交流を通じた向上」の項目、1項目のみ改善課題項目として残った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者及び職員は評価の意義を理解しており、全員で評価に参加しサービスの質の確保に活かしていけるよう取り組まれている。外部評価の結果報告も運営推進会議で報告されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政関係、地域住民の代表、利用者、家族で構成で、2ヶ月に1回定期的に開催されており、詳細な議事録も残されている。施設の活動報告や課題等について、卒直は質問・意見が出され活発な討議が行われている。今のところ、地域の人や家族の方については、グループホームというものの理解度を深めてもらうという事に重点がおかれている状況である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回、開催する家族会や運営推進会議、来訪時に家族が意見や不満を言い易いような雰囲気作りに留意している。家族から上がった意見等は職員で話し合い、運営に反映させている。家族会も定期的開催され、これからもっと意見等があがってくると思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的なつきあいが出来にくい環境にあるが、ホーム主催の祭りや地域の催し物への参加など、地域住民との交流に努めている。本年度は念願の自治会へ賛助会員として加盟が決まり、新たな交流が期待できる。以前から、小・中学生やボランティアとの交流等、活発であり、積極的に地域にとけ込む努力をされている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新しい理念「ゆっくり、たのしく、いっしょに、穏やかに」を基本に地域との関わりについても「グループホームを開かれたものにする」とともに利用者の方が地域社会の一員として生活することを支えていく」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、日々のミーティングや職員会議では理念にもとづいた話し合いが行われ、実践に活かすよう日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の体験学習の受け入れ、小中学生、保育園児、地域のボランティアの訪問、又、地域の祭りに参加したり、ホーム主催の祭りに地元の人が参加するなど積極的な交流が行われている。また、自治会の加入が決定し、更なる交流を目指していることが伺えた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善項目はほとんど改善されていた。評価の意義はよく理解しており、管理者が素案を作り、それを各ユニットで全員で検討するという方法で、全員が自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的開催され、施設の活動や課題を報告し、活発な意見交換がされている。議事録もとても詳細に記録されており、様子がよくわかる様に記載されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は折りふれ市役所を訪問し、質問等を協議し連携を密に執りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。市の担当者は運営推進会議出席時にしか立ち寄りがない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族には、健康状態や日々の暮らしぶりの報告を行っている。面会の少ない家族には電話等で連絡し、個々に合わせた報告を行っている。また、月1回発行される「ハートキュア通信」で、行事等についても定期的に報告がなされている。		職員の紹介や異動についての報告も掲載されたらどうでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが、あまり投書されていないのが現状である。意見、不満、苦情等は直接電話や口頭で頂き、あがって来たものに関してはすぐに管理者含め職員間で話し合い、対処、運営に反映している。家族会も設立された事から、そこでの希望や意見の抽出・対応・報告に活かして行きたいと言う意気込みが伺えた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は異動や離職を最小限にする努力がなされ、利用者へのダメージを防ぐ配慮について成果をあげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、なるべく参加するように配慮されているが、研修の年間計画表は確認できなかった。OJTについては、介護福祉士の国家試験に5名合格したこと等成果が上がっている。		研修の年間計画表を作り、全職員が各自希望する研修会には積極的に手をあげて参加できるようなシステムにすることで、より効果があがると思います。研修内容は全職員で共有出来るよう伝達講習や研修報告書の回覧などを行う事も大切ではないでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会にも入会しており、研究発表もされているが、相互研修や交流はまだ行われていない。現在、近くの同業者の事業所に見学を依頼中である。	○	同業者との相互研修や交流を通して、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な取り組みに期待したいです。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活歴の聞き取り、又、本人、家族の見学、職員の家庭訪問等、入所が本当に必要かどうかその利用者の方にとって、今、その人にとって一番良いサービスは何かを一緒に考えながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度が重度化してきている現実の中で利用者の中にあるものを見つけ出し、寄り添っていくケアをできるように取り組まれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望をできるだけかなえられるように努力している様子が、利用者の暮らしぶりを拝見していて確認できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者家族の要望を聞いて担当者会議、カンファレンス、モニタリングを通して職員全員で介護計画を作成している。個人の記録用紙にケアプランを記入し、日々の記録時に常にケアプランに沿っているかどうかをチェックできるように工夫がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度の見直しとなっているが変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスのお出かけや利用や本人家族の状況に応じて通院や外出などの支援が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望で決めており、受診は家族同行としているが家族が対応できない場合は事業所で対応している。協力医の訪問診療(2週間に1回)もあり、複数の医療機関と関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針について文書化されており、入所時から家族にも説明されている。職員の死生観教育についても心を配っていることが確認できた。		文書化されていることでこのホームの指針が良く理解できる。利用者の重度化終末期に対応するための介護技術、専門知識の習得の研修が行われると良いと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや尊厳を損なわない対応がなされており、ミーティング時に話し合い職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが利用者一人ひとりのペースを大切にゆっくりとした日常生活が過ごせるよう支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出し、食事の準備、片付けなど、利用者の出来そうな事を見つけ、工夫しながら一緒に行っている。職員は検食以外は弁当持参だが同席して介助している。		せっかく栄養士さんが職員の中におられるので定期的にカロリー計算等されて、家族にも報告されるとよいと思う。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回と決めているが時間帯は希望に合わせて入浴できる体制がとられている。又、同性介助が出来るように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や特技などを把握して役割を見出し、生がいに つなげる支援をしている。又、利用者の加齢に伴う変化にも目を向けた柔軟な支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者の方には職員が付き添い外出している。季節の行事や、花見、いちご狩り、遠足等外出の機会は多く持たれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、ホールは防犯上夜間施錠する以外は、日中自由に出入りできるようにになっている。階段にはセンサーが取り付けられており、外出傾向のある利用者には職員は常に目配りし、付き添うなどの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに年4～5回の避難訓練を行っている。地域の消防団との連絡はとれているが共同の訓練はまだ実現できていない。		食料品、水の備蓄を検討されることを願います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を把握している。 利用者の摂取状況に応じてきざみ食、ペーストゼリーなどの工夫がされている。		食事のカロリー計算を行い、より根拠のある食事指導の支援ができることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂とも、広々とした空間で窓から田園風景が見られ、心地よく配慮されている。廊下も広くとられており、車いすの利用者がおられてもスペースに余裕がある。季節の花が活けられており、とても家庭的な雰囲気を覚えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や日用品が持ち込まれており、利用者のその人らしさが感じられる部屋になっている。		